

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	ムオンチャ郡とトアンザオ郡の女性と女兒が、人身取引や女性と子どもに対する暴力 (Violence Against Women and Children: 以下 VAWC) のリスクから身を守ることができるようになる 達成度: 目標の達成に向け、概ね予定通りの進捗が確認できた。2 年次終了時点で受益者の大半が事業地域が安全な環境であると感じており、人身取引や VAWC の予防・対応について知識の向上および意識の変化があったものと考えられる。 また、上位目標である「人身取引や VAWC の被害にあう件数の減少」については、2 年次終了時点で「最近人身取引や VAWC を経験した」と答えた女兒の割合が減少しており、目標達成に向けた進捗が確認できた。 1 年次に作られたムオンチャ郡とトアンザオ郡における女性と女兒を守るための地域社会の仕組みが地域住民に周知され、活用される 達成度: 目標の達成に向けて十分な進捗が見られたが、一部取り組みの更なる強化が必要である。 主な活動対象である女性・女兒の知識・スキルの向上や、地域社会の仕組みの強化に関しては大方の指標で目標値以上の成果が確認できた。一方で、直接受益者ではない地域住民の知識レベルについては目標値を下回る結果となり、情報の周知により注力する必要があることが分かった。
(2) 活動内容	本事業は 3 年間で計画している事業の 2 年目であり、2021 年 3 月に開始した。事業の 1 年次に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症 (以下 COVID-19) については、2 年次の事業期間中は大規模な感染拡大は抑えられた。一部、規模の縮小やオンラインでの実施を強いられた活動があったが、予定していた活動は全て遅延なく完了することができた。 各活動の実施内容の詳細は以下の通りである。 成果 1: コミュニティ・センターで、女性 (19-29 歳) が人身取引や VAWC の現状と対策、リーダーシップスキルを学び、リスクへの自覚と知識が備わる 活動 1-1. コミュニティ・センターの新築・改装 計画通り 5 棟 (ムオンチャ郡サローンコミュニンで 2 棟、トアンザオ郡のプニューンコミュニン、ランドンコミュニン、ピンサンコミュニンで各 1 棟) のコミュニティ・センターの建設を完了した。また、既存のコミュニティ・センターの内外設備を女性のニーズに合った仕様にするため、7 棟にトイレを設置した。申請時にはムオンチャ郡にて 8 棟のトイレ建設を予定していたが、事業開始後にそのうち 2 棟に現地政府が建設計画を立てていることが判明した。そのため、1 棟をトアンザオ郡で建設し、もう 1 棟は中止としたほか (事業変更承認済: 2021 年 10 月 6 日)、ムオンチャ郡で建設したトイレのうち 2 棟で申請時よりも幅が広くなるようサイズを変更した。これは、該当のトイレを建設している村に住むサファ (Xa Phang) 族の成人男性でも使用しやすいよう考慮したためである (事業変更承認済: 2021 年 10 月 6 日)。 またムオンチャ郡でこれまでに建設したコミュニティ・センター 8 棟に視聴覚機材などの備品を設置し、研修やクラブの活動がより円滑に、かつ効果的に実施できるようになった。 これらの活動により、ムオンチャ郡・トアンザオ郡でコミュニティ・センターを利用する女性の割合は増加した (詳細な指標は後述)。

1-2. 人身取引と VAWC から自分と子どもを守るためのスキル研修

人身取引や VAWC から自分や子どもを守るためのスキル向上を目指して、2 年次も 43 の女性グループを通じた女性の意識向上と経済力強化のためのコミュニケーション活動を継続した。女性グループは、人身取引や安全な出稼ぎ、ジェンダー平等についての知識を対象地域に広めるうえで重要な役割を担うとともに、少数民族女性の生計向上を目指した貯蓄グループ活動の基盤でもある。また、女性や女兒のための保護ネットワークを地域の中心地域から遠く離れた地域にも拡大するため、遠隔の家庭を訪問している。遠隔地で人身取引や暴力の危険にさらされやすい女性に対する啓発を継続し、活動成果の強化に努めている。

1 年次に実施した研修では、モン族の女兒の事例を扱った教材を使用して、知識の向上と日常生活に適用できるアイデアの共有を目指した。2 年次では、この研修を受けた女性連合のスタッフが、女性グループのメンバーを対象に啓発セッションを実施した。VAWC と人身取引の防止やインターネット上で子どもの安全を保つ方法などを扱い、計 172 回で計 3,440 人が参加した。また、このグループセッションに参加できなかった女性やハイリスクの女性 1,290 人を対象に、村での個別セッションを計 129 回行った。

2 年次を通して、女性グループは計 430 回(43 村*10 回)の月例会を開催し、約 900 人(約 20 名/1 グループ)のメンバーが継続的に参加した。月例会では、グループ活動の実施状況を報告するほか、これまでの活動の振り返り、規則の見直しと改善、会員数の確認などが行われた。

1-3. リーダーシップ研修

リーダーシップのスキル向上を通じた女性のエンパワーメントを目指し、1 年次に郡女性連合の監督下でリーダーシップ研修を実施した。2 年次では、その研修を受講した女性連合のリーダー 50 人が主導して、ジェンダー問題への意識向上、自らの判断力・計画力の強化、問題解決に向けたマネジメント力の強化に重点を置いた研修を行った。それぞれの使用言語(タイ語とモン語)で、AV 機器、ストーリー、ゲームを活用し、計 70 回の研修が行われ計 1,081 人の女性グループメンバーが参加した。この研修は、知識の定着をより確実にするためリフレクション研修を追加し、35 村で 2 回ずつ実施した(変更報告第 8 号)。

また、女性たちは上記の研修で学んだスキルを用いて、VAWG や人身取引問題に関するイベントを実施した。女性たちの課題を地域の多くの人に広めるべく、計 7 回のフォーラムや啓発イベントを市場で開催した。

成果 2: 女兒(12-18 歳)が、学校や子どもクラブでの活動を通して人身取引や VAWC のリスクから自分と友人を守るスキルを習得

2-1. 女兒に対するライフスキル研修

子どもクラブは、女性グループとともに、対象地域における啓発活動において重要な役割を担っている。現在、21 の子どもクラブ(学校ベースが 7 グループ、村ベースが 14 グループ)が活発に活動しており、事業対象地の子どもたちは人身取引と暴力の防止、安全な出稼ぎ、ジェンダー平等に関する基本的な知識とスキルを身につけてきている。

子どもクラブの女兒を対象に、ライフスキル研修を計 63 回(21 グループ*3 回)実施し、1,386 人が参加した。1 年次に作成した研修マニュアルを使用し、子どもたちにとって重要な「目標設定をするスキル」、「自分の考えやアイデアを伝えるス

キル」、「自分を守るスキル」、「責任を取ることの重要性」、「問題解決能力」などを扱った。申請時は2回の研修にて10のトピックを学ぶ予定であったが、それぞれをより深く学ぶ時間をとるため3回に増やした(変更報告第8号)。

行動変容のための啓発イベントは、COVID-19の感染拡大防止のため実施時期を見直したが、2年次中に計画通り計14回実施することができ、計4,676人が参加した。

2-2. 女兒が自発的に地域でイベントを計画・実施する

2年次は21の子どもクラブが計210回の活動集会をもち、延べ6,300人(メンバー30人*210回)が参加した。この集会では、子どもクラブの意義と活動について議論し、また人身取引の防止、自己防衛、安全な出稼ぎなど、VAWCから身を守るためのライフスキルを学んだ。

ディエンビエン省内の他郡の中学校の子どもクラブとの交流会は、COVID-19の影響で郡内での交流会に変更し(変更報告第10号)、かつムオンチャ郡では人数を絞って実施した。各郡から選ばれた優秀な女兒(トアンザオ郡50人、ムオンチャ郡16人)と教師(トアンザオ郡10人、ムオンチャ郡2人)の計78人が参加した。

また、中間報告の通り『子どものためのアクション月間2021』の一環で実施したコンテストを含め、子どもクラブによる啓発イベントが計14回開催され、計560人が参加した。

成果3: 女兒と女性が収入向上の術を会得

3-1. 女性と女兒が就労のための基礎的なスキルを会得する

1年次に続き、コミュニケーションや金融リテラシー等のスキル研修には、人身取引やVAWCの被害に合いやすいハイリスク・グループの女性が優先的に参加した。クラス形式の研修は30回で900人の参加を見込んでいたが、ディエンビエン省のCOVID-19感染拡大防止策に従い一度の集合を20人以下に調整をして実施を行った。そのため計画を下回る計792人の参加となった。並行して、クラス形式に参加できない遠隔地の女性のために自宅でのフォローアップセッションを計60回行った。1回につき近隣の女性5人が一緒に参加できるようにし、計300人の女性が参加することができた。

さらに、女性のための職業準備スキル研修を計43回実施した。この研修を通して、計860人の女性が実際に店舗や会社、工場などで働く際に必要なコミュニケーション・スキル、チームワーク、問題解決スキル、自己管理スキルなどを学んだ。女兒に対しては、中学卒業後の進路に焦点を当てた職業準備スキル研修を計43回実施し、計861人が参加した。また、政府が承認したディエンビエン省内外の安全な仕事情報を提供するセッションを計7回実施し、計495人のハイリスクの女性と女兒を対象にディエンビエン省内外の安全な求人情報の提供を行った。セッション参加後、目標値を超える参加者の20%が紹介された求人情報について詳細をベトナム国労働・傷病兵・社会局(Department of Labor, Invalids and Social Affairs: 以下 DoLISA)に問い合わせしており、安全な職へつながるきっかけを提供することができた。

3-2. 女性が収入向上のための基礎的なスキルを会得する

家畜の世話に関する研修は、自己資金で行う家畜の供与に合わせて8月に実施した。計4回の研修で、計119人が家畜の世話、伝染病への対処の仕方、家庭菜園の育て方に関する指導者養成研修(Training of Trainers: 以下 ToT 研修)

を受け、彼女たちによって、コミュニティ・センター(計 25 回、参加者計 525 人) および家庭(計 156 回、参加者計 1,248 人)での実地研修を実施した。自己資金による女性グループのメンバーへの家畜の供与も 2 年次に予定通り開始した。対象者の希望および適性を鑑みて、2～3 年次にかけて牛・山羊・鶏を提供する(自己資金)。

貯蓄グループは生計向上のための重要な取り組みと位置付けられており、家畜の供与はこの貯蓄グループを介して行うことが望ましいと判断した。現在、43 の貯蓄グループに 1,000 人以上のメンバーが参加している。貸付先は、内容の適切さや緊急性などをグループで協議し、合意をもって決定している。これまでの主な貸付理由は医療費や商売道具の購入、家畜の追加購入、飼育に必要な道具・小屋の費用などで、貸付期間は長くても半年程度となっている。2 年次終了時までの貯蓄額は 336,949,000 ベトナムドン¹(1,855,647 円)で、292 人が貸付を利用した。女性連合の監督下で、ほとんどの貯蓄グループが良好に運営されており、女性たちはこの貯蓄活動を通じて家庭やコミュニティ、社会における役割を担いつつ、生活向上を実現していく力を身につけている。

成果 4: 人身取引と VAWC の予防のための効果的な枠組みの実施

4-1. 人身取引と VAWC の予防策、ジェンダー平等の基礎知識のある子どもの保護委員会(以下 CPC)が機能する

2 年次は CPC メンバー計 62 人に対して、ToT 研修を 2 回実施した。研修ではジェンダーや VAWC および人身取引の防止と撲滅、ケース・マネジメント、家庭訪問に関する知識とスキルを十分に身につけることを目指し、村・コミュニティ・郡レベルで実施した。

CPC やコミュニティ・郡政府は VAWC 防止のため地域社会で報告とレファラル制度を機能させるため、年間活動計画を策定し実施した。コミュニティレベルでは、それぞれ 2 年次の活動目標や予算、活動を遂行する上でのスケジュール、期待すること、役割分担について議論し合意した。コミュニティレベルの会合は 7 回で 210 人の参加を見込んでいたが、行政の COVID-19 感染拡大防止策により計 135 人の参加となった。郡レベルでは、各郡の事業運営委員会とコミュニティ事業運営委員会のメンバーが参加する会議を開催した。活動計画の策定を通して、それぞれの委員会のメンバーは事業内容の理解を深めることができた。

2 年次に、事案が発生した際の報告と対応についてのガイドラインを作成した。ガイドラインはワールド・ビジョンが策定した報告・リファラルの仕組みを参照し、各地域のコンテキストに沿った内容になるよう郡およびコミュニティの政府関係者と協議の上で作成した。ガイドラインには、報告先や方法、守秘義務について、各ステークホルダーの役割と担当者などが明記されている。このガイドラインを使用し、事案が発生した際の対策として実施するケース・マネジメントおよび世帯訪問担当者のための訪問技能に関する事前研修を計 4 回実施した(2 回分は 1 年次より持ち越しの活動)。計 127 人の参加者が、人身取引の被害者となる危険にさらされている、ハイリスクの女性や子どもの特定の仕方、救済サービスへつながる具体的な手続き、家庭訪問手法のコンセプトや原則を含む基礎知識、訪問計画作成について学んだ。研修の参加者によって、2 年

¹ トアンザオ郡の 24 グループの合計 178,792,000 ベトナムドン、ムオンチャ郡の 19 グループの合計 158,157,000 ベトナムドン

	次の間にハイリスクもしくは被害を受け対応が必要な 323 世帯が訪問によるサポートを受けた。 また、レファラル・パートナーが提供するサービスの質の向上を目指したワークショップを、郡レベルで計 4 回（2 回分は 1 年次より持ち越しの活動）と省レベルで 1 回開催した。 <u>4-2. 地域の人々が人身取引とVAWCの予防策、ジェンダー平等についての啓発メッセージを受け取る</u> ToT 研修を受けた CPC メンバー主導のもと、ジェンダー平等や人身取引と VAWC のリスクおよび対策をテーマとした啓発セッションを計 86 回実施し、計 1,720 人が参加した。コミュニティ・センターでの参加者に加え、遠隔地にある家庭へのモバイルチームによる戸別訪問²も事業地の 43 村で行った。同セッションでは、ジェンダーにまつわる問題について女性と男性双方の理解を高めるため、参加者には男性も招いて実施した。 2 年次に、子どもが家庭の中で十分に守られて安全に生活できるよう、家族・夫婦のきずなを強める研修を開始した。対象村で地域開発プログラムが実施している「肯定的なしつけ法」および「セブレイティング・ファミリーズ」について、フォローアップが必要な女性たちを対象に研修を実施した。申請時は各村 1 回を予定していたが、実際にどのように日常生活に反映し実践しているかを話し合う機会を持つため、コンテスト形式の会合をもう 1 回ずつ追加実施することとした（変更報告第 8 号）。「肯定的なしつけ方法」の研修はハイリスクの女性たちを対象に計 22 回行われ、計 522 人が暴力を伴わないしつけ方法について学んだ。一方、「セブレイティング・ファミリーズ」では女性グループのメンバーを対象とし、子どもたちが安全に暮らせる環境づくりにおける自分たちの役割と具体的な行動について、計 44 回（前述の会合を含む）の研修を実施した。 人身取引や VAWC の予防策、ジェンダー平等について事業対象地の人々に広く伝えるため、地域のイベントや市場でのパフォーマンスを通してメッセージの拡散に努めた。コミュニケーションレベルではお祭りの時期の文化イベントにて実施し、計 7 回で計 1,967 人が参加した。郡レベルでは、人が集まる市場にてトークショーや演劇などを行い、計 2 回で計 2,050 人にメッセージを伝達した。 国連ウィメンが中心となって全世界で実施した「女性と女兒に対する暴力撤廃のためのキャンペーン」に協働した。申請時は、女性・女兒によるダンスなどのパフォーマンス、トークショー、マラソンやサイクリングなどのスポーツイベントを予定していたが、行政の COVID-19 の感染拡大防止策に従い、オンラインでのイベントに変更した。1 回のイベントで、オンラインコンサートやダンス、動画上映、ストーリーのコンテストなどを通してジェンダーにまつわるメッセージを発信した。また、省レベルで実施予定だったイベントに関しても、村レベルでの実施に変更し、43 村にて同様にパフォーマンスなどを通して学ぶ機会をもった。これらのイベントの振り返りについては、プログラム運営委員会とともに省ではなくコミュニケーションレベルで計 7 回の会議をもち、イベントの内容や成果について話合った。 <u>4-3. 郡政府が学校及び地域での活動をモニタリングする体制が構築される</u>
--	---

² 村落レベルで結成されたモバイルチームによる戸別訪問は、CPCによる家庭訪問とは異なる。

	本事業の活動の実施と監督を担っている CPC および郡政府が事業終了後も活動を継続できるよう、計画策定・振り返りの会議を定期的に開催した。 43 ある女性グループのリーダーたちが CPC の監督下でコミュニケーションごとに集まり、月次で活動計画を策定し、四半期に一度その振り返りを実施した(計 70 回、940 人)。また、CPC は郡の労働・傷病兵・社会局の監督下で同様に活動計画策定のための月例会議および四半期ごとの振り返りを実施した(計 70 回、1,603 人)。CPC のオーナーシップ醸成および活動の持続性担保のため、CPC メンバーは月例会議の活動の一部として女性グループと子どもクラブの訪問を実施した(変更報告第 8 号)。 主に女性グループと子どもクラブの中から好事例や教訓を抽出し、郡政府へ共有する機会を持った。共有する方法について検討した結果、活動紹介および関係者のコメントを含めた動画を通して、人身取引や VAWC の予防のための取組みについて認識を高めることを目指した。 各コミュニケーションの CPC メンバーは、好事例や教訓の学びあいのために他のコミュニケーションを訪問した。行政の COVID-19 の感染拡大防止策により他郡への訪問は実施できなかったが(変更報告第 10 号)、郡内での計 4 回の視察訪問を行い、計 133 人が参加した。												
(3)達成された成果	1 年次終了時は、特定の活動に参加した女性・女児のみを対象にした数値を参照したため、全体的に目標値を大幅に上回った。2 年次終了時は、設定した目標値に照らして比較できるよう、小規模調査の実施を予定していた。実施を前に調査方法を改めて検討した結果、小規模調査よりも多いサンプル数(約 300 世帯)での調査を実施することとした。これは事業ベースライン(1 年次)と事業終了時評価(3 年次)に近い調査方法(定性評価を含まない)であり、調査対象は特定の活動の参加者ではなく村の住民より無作為に選ぶ手法を取ったため、より正確に計測値の比較ができる。 【成果 1】コミュニティ・センターで、女性(19-29 歳)が人身取引や VAWC の現状と対策、リーダーシップスキルを学び、リスクへの自覚と知識が備わる 【指標】: 人身取引や VAWC の報告に対応するサービスや仕組みが村に存在することを知っている女性の割合が増える <table><tr><td></td><td>ベースライン³</td><td>1 年次終了時</td><td>2 年次終了時</td></tr><tr><td>目標</td><td></td><td>63.5%</td><td>79.7%</td></tr><tr><td>結果</td><td>43.9%</td><td>82.5%</td><td>69.4%</td></tr></table> 1 年次終了時の数値は女性グループの啓発セッションに参加した女性のみを対象に実施したプレ・ポストテストの結果を参照した。一方、2 年次はベースライン調査に近い調査方法で実施し、参加者以外の女性も調査対象に含まれるようにした。結果、数値は前年度より 13.1 ポイント下がり、目標値を下回った。活動の主な対象である女性グループのメンバーは、1・2 年次のリーダーシップ研修等を通して自信や発言力を高め、3 年次には学んだ内容を地域の人々に広めることが期待されている。3 年次は、参加者以外にも知識を広めること促進するよう特に意識して引き続き啓発活動に注力する。		ベースライン ³	1 年次終了時	2 年次終了時	目標		63.5%	79.7%	結果	43.9%	82.5%	69.4%
	ベースライン ³	1 年次終了時	2 年次終了時										
目標		63.5%	79.7%										
結果	43.9%	82.5%	69.4%										

³ これ以降の表に記載されているベースライン調査の結果は全て 2020 年 11 月時点の数値。

【指標】：女性と女児の暴力について報告した女性の割合が増える

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
子どもの保護委員会が対応したケース数			
目標		11 件	10 件
結果	0 件	9 件	11 件
「もし人身取引の被害に遭ったら報告を行うか」に Yes と回答			
目標		24.8%	30.2%
結果	28.7%	53.0%	81.1%

本指標は、啓発によって暴力の報告が増える側面と、啓発によって暴力の件数そのものが減る側面と 2 つあることを鑑み、報告件数と合わせてみていく指標となっている。報告件数は、いったん上昇した後（報告が増える）、2 年次以降減っていく（暴力件数が減る）傾向を想定していたが、1 年次より 2 件増えた結果となった。

1 年次終了時の数値は女性グループの啓発セッションに参加した女性のみを対象に実施したプレ・ポストテストの結果を参照したため数値が大幅に上昇した。一方、2 年次はベースライン調査に近い測定方法で参加者以外の女性も対象としたが、それでも目標を大幅に超える結果となった。これは、女性グループおよび子どもクラブの活動が継続的かつ活発に実施されていることや、トレーニングと調査の実施時期が近かったこと、またベトナム政府による人身取引に関する取り組みの強化などの外部要因も影響したと考えられる。

2 年次終了時点で 3 年次の目標値を 48.6 ポイント超えた結果となった。しかし、暴力の件数にはまだ減少がみられないことも鑑みて、3 年次も計画通り知識の定着に継続して努める必要があると考える。

【指標】：コミュニティ・センターを月に 2 回以上の頻度で利用している村人の割合（ジェンダー・年齢別）が増える

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
目標		23.1%	46.2%
結果	0%	26.0%	57.9%

19-30 歳の女性の 68.6%が月に 2 回以上の頻度でコミュニティ・センターを利用していると回答した。この指標は、今ある既存のセンターの数が母数となるため、毎年その母数は変化する。備品の整備やトイレの建設などが進み利用しやすい環境が整ったこと、また事業や地域の活動・イベントによって定期的に利用する機会が設けられていることから、目標を 11.7 ポイント超える結果となったと考えられる。2 年次終了時点で 3 年次の目標値を 2.5 ポイント超えているが、事業終了後に事業以外の活動で十分にコミュニティ・センターが活用されるためには、引き続き利用の促進に向けた取り組みが必要であり、3 年次も計画通りの活動を進める。

【指標】：Smart Navigator Toolkit にのっている人身取引と VAWC 予防の知識が向上した保護者と女性グループリーダーの割合が増える

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
目標		60.0%	65.0%
結果	0%	88.0%	72.0%

1 年次終了時は、研修受講者のみを対象に研修前後にテストを実施し、その解答から計測を実施した。2 年次はベースライン調査に近い測定方法で実施したが、目標値を 7 ポイント超える結果となった。これには、女性グループの活動が定期的かつ活発に実施されていることや、ベトナム政府による人身取引に関する取り組みの強化などの外部要因も影響したと考えられる。2 年次終了時点で 3 年次の目標を 2 ポイント超えているが、知識の定着を確実にするため 3 年次も計画通りの活動を実施する。

【指標】：リーダーシップに関して知識が向上した女性グループメンバーの数

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
目標		80 人	350 人
結果	0 人	131 人	380 人

研修受講者のみを対象に研修後に実施したポストテストで 70%以上取得し合格した女性の数。765 人の参加者のうち、380 人の女性がリーダーシップに関する知識の向上を示した。

【成果 2】女兒(12-18 歳)が、学校や子どもクラブでの活動を通して人身取引や VAWC のリスクから自分と友人を守るスキルを身に付ける

【指標】：人身取引や VAWC を報告した際、受けられる支援について知っている女兒の割合が増える

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
目標		77.2%	97.0%
結果	57.5%	84.2%	69.2%

1 年次終了時は、子どもクラブの研修受講者のみを対象に研修後に実施したポストテストで 70%以上取得し、合格した女兒の割合を参照した。2 年次はベースライン調査に近い測定方法で実施し、目標値より 27.8 ポイント低い結果となった。これは、主に COVID-19 の影響で学校も休校が続くなど、子どもクラブのメンバー以外の子どもたちと情報交換をする機会自体が大幅に減少したことが大きく影響したと考えられる。子どもクラブのメンバーはこれまでのライフスキル研修を通して自身や発言力が高まっていることが期待されており、3 年次には受講者以外にも知識を広めること促進するよう特に意識しつつ引き続き啓発活動に注力する。

【指標】：ライフスキルの知識が向上した女兒の割合

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
目標		70.0%	75.0%
結果	0%	85.0%	73.1%

子どもクラブの研修受講者のみを対象に研修後に実施したポストテストで 70%以上取得し、合格した女兒の割合。2 年次はベースライン調査に近い測定方法で実施し、目標値より 1.9 ポイント低い結果となった。これは、COVID-19 の影響などにより子どもクラブのメンバー以外の子どもたちと学んだ内容を共有する機会が少なかったためと考えられる。3 年次は、子どもクラブのメンバーによる積極的な情報発信を促進しつつ、引き続き研修および関連する啓発活動に注力し、目標値の達成を目指す。

【成果 3】女兒と女性が収入向上の術を会得する

【指標】: 研修で学んだ方法に則って家畜を育てている女性グループのメンバーの割合が増える

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
目標		60.0%	65.0%
結果	0%	未計測	71.7%

1 年次終了時は、参加者の改善された技術がどのように適用されたかを確認するための家畜をまだ提供していなかったため計測しなかった。2 年次に家畜の提供を開始し、結果として目標を超える 71.7%の女性が研修で学んだ方法を実践できていると回答した。2 年次終了時点で 3 年次の目標値を 1.7 ポイント超えているが、家畜の供与がまだ続いており、今後も継続して実践できるよう知識の定着を確実にするため、3 年次も計画通りの活動を実施する。

【指標】: 紹介された安全な職の詳細を問い合わせ、または応募した女兒と女性の割合

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
目標		10.0%	15.0%
結果	0%	18.0%	20.0%

求人イベントで紹介された安全な職の詳細を、イベント参加後に問い合わせた女兒と女性の割合。目標値の 1.3 倍の女性と女兒が、イベント終了後 DoLISA に紹介された職の詳細を問い合わせた。2 年次終了時点で 3 年次の目標値に達しているが、より多くの女兒・女性が安全な職につけるよう 3 年次も計画通りの活動を実施する。

【成果 4】人身取引と VAWC の予防のための枠組みが効果的に実施される

【指標】: 子どもの保護委員会が対応したケースの数が減る

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
目標		11 件	10 件
結果	0 件	9 件	11 件

この指標は、2 年次以降は減少する(暴力件数が減る)ことが期待されていたが、結果は 1 年次よりも 2 件増加した。これは、COVID-19 の感染拡大防止策の影響もあると考えられる。外出制限および休校や失業のストレスなどから家庭内暴力の件数が増加傾向にあると言われており、その影響で期待と異なる結果になったと推察している。一方で対応件数の増加は、CPC がコミュニティで周知され、以前よりも暴力被害が CPC へ報告されるようになったとも考えられる。3 年次は、引き続き CPC への報告の手順や手続きの定着を図りつつ、暴力件数の減少に向けて啓発活動に注力する。

【指標】: 自分の住む地域が女性と女兒にとって安全であると感じている保護者・両親の割合が増える

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
--	--------	---------	---------

目標		60.0%	66.0%
結果	56.6%	73.0%	82.2%

1 年次終了時は、啓発イベントに参加した保護者への調査票の回答より計測した。2 年次ではベースライン調査に近い測定方法で参加者以外も対象に計測したが、目標を 16.2 ポイント超える結果となった。これは、研修や啓発活動を通して、自分や子どもたちに何か危険が迫った際でも適切に対処できる自信があると感じている保護者・両親が増えたためだと考えられる。2 年次終了時点で 3 年次の目標値を 4.2 ポイント超えているが、知識の定着を確実にするため 3 年次も計画通りの活動を実施する。

【指標】：人身取引と VAWC の問題の鍵と、予防に関して自分の役割・責任を理解している政府スタッフの割合

	ベースライン	1 年次終了時	2 年次終了時
目標		65.0%	70.0%
結果	36.0%	65.0%	89.5%

研修に参加した政府スタッフへの調査票の回答より計測した結果、目標値を 19.5 ポイント超えた。研修の実施に加え、あらゆる場面で政府と協働・情報共有をすることで、自らの役割・責任の理解を促すことができたためと考えられる。2 年次終了時点で 3 年次の目標値を 14.5 ポイント超えているが、政府スタッフは事業終了後の持続発展性の担保の要となるため、彼らの理解度定着およびオーナーシップ醸成を目指して 3 年次も計画通りの活動を実施する。

【指標】：CPC によって郡政府に活動の好事例や教訓が共有された数が増える
目標：2 件 結果：2 件（ベースライン・1 年次は実施なし）

活動の好事例、教訓が認められるまで時間がかかるため、2 年次から実施した。女性グループおよび子どもクラブの活動について計 2 本の映像を作成し、それらを使って好事例、教訓として各郡政府に共有する機会を持った。

【SDGs への貢献】

女児・女性に対する VAWC 予防の啓発活動、能力やスキルの向上、生計向上の活動実施とその成果を通じて、以下の目標実現に貢献した。

目標 5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

5.2 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。

目標 16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

16.2 子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。

(4) 持続発展性

CPC は村長、学校長、DoLISA 職員、女性連合などで構成されており、事業の中核を担っている。事業終了後に、活動を自立発展的に継続するため CPC のオーナーシップの向上を念頭に、CPC との協力体制の強化、情報共有など

に注力をしながら活動を実施している。特に CPC においては、持続発展性担保をさらに確実なものにすべく、変更報告第 8 号にて月例会議の一環として本事業の要である女性グループおよび子どもクラブの訪問活動を追加した。これらのグループの活動への関与を早くから始めることで、事業終了後に滞りなく主体的に活動を引き継げるようになることを目指している。

また事業終了後を見据えて、活動に政府の資金から必要な予算を確保するような働きかけなど、継続的な活動実施のための戦略を検討している。3 年目には、具体的な引継ぎの計画を策定し、CPC と郡の DoLISA への事業引き継ぎを念頭におきつつ活動を実施する予定である。事業 3 年次の 1 年間、CPC と郡の DoLISA と伴走することによって、事業終了後に CPC と郡の DoLISA が活動を引き継ぎ、継続できることを目指す。

また本事業で建設されるコミュニティ・センターは、コミュン人民委員会が管理し、郡の人民委員会が監督する。事業終了後も、女性がコミュニティ・センターを継続して利用し、センターが適切に管理・運営されるように、CPC はコミュニティ・センター建設の準備段階からコミュン人民委員会と村長を巻き込んで建設を進めた。

ワールド・ビジョンは本事業の事業地において、自己資金による地域開発プログラムを展開している。特に、ムオンチャ郡とトアンザオ郡の事業は 2025 年まで継続する。そのため、当事業の終了後も適切に活動が継続されているか、開発プログラムの活動の一環として適宜モニタリングを実施する。